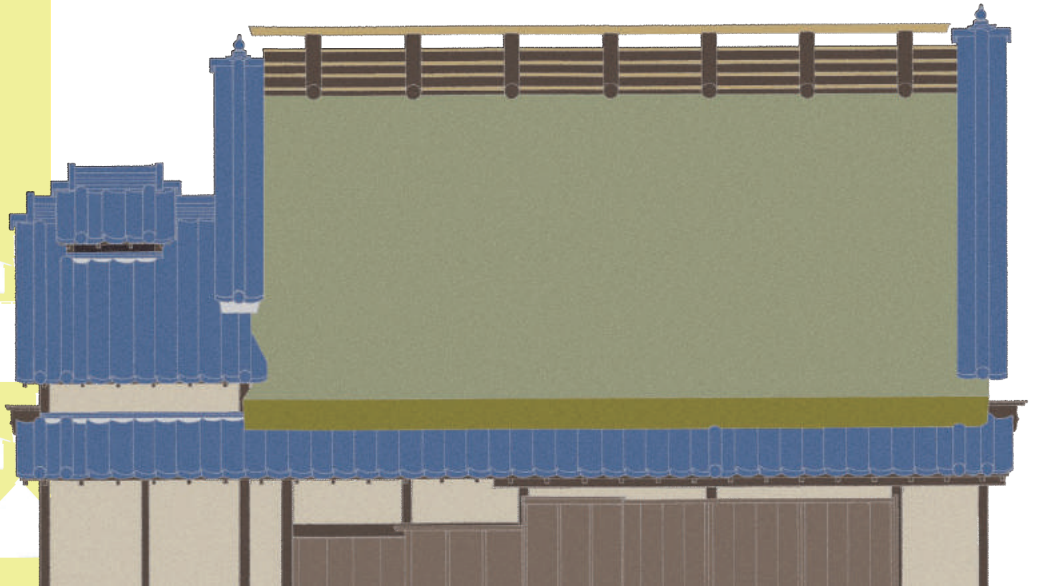


# 奈良県指定有形文化財 旧細田家住宅

奈良市教育委員会

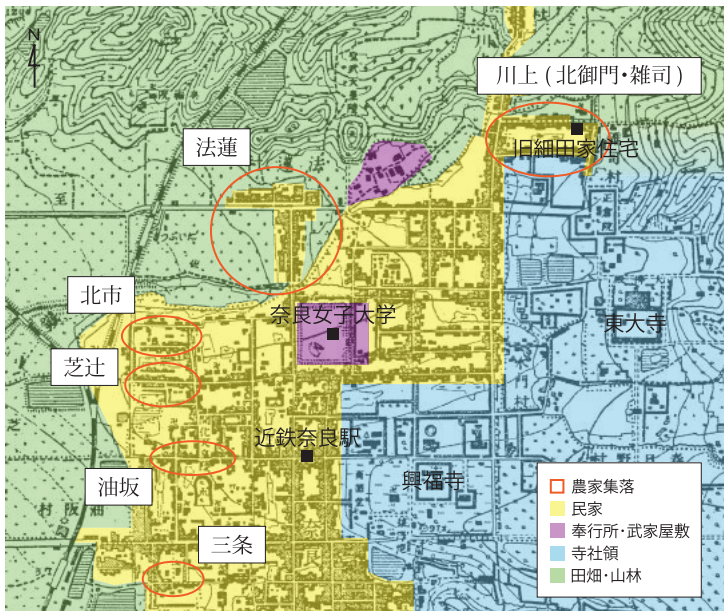
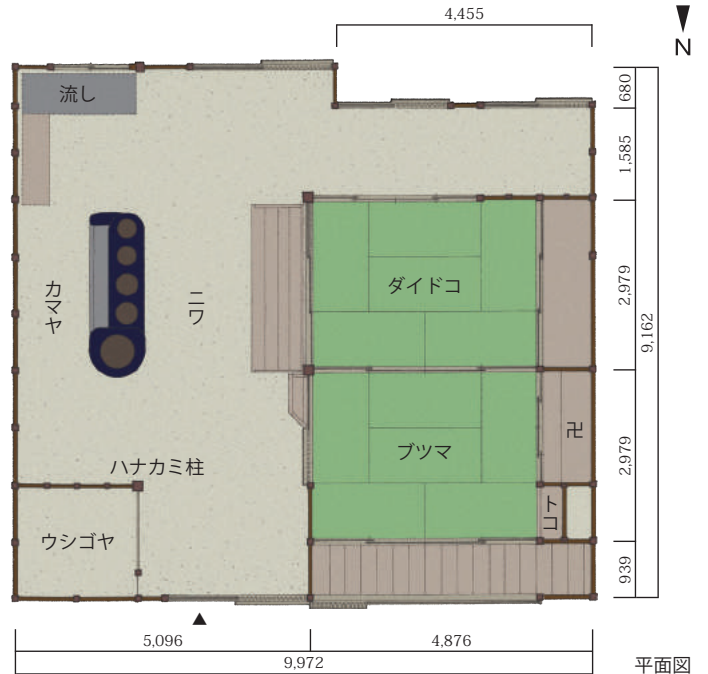


## 旧細田家住宅とは

「奈良町」と呼ばれる奈良旧市街の北部にあります。柱と梁の構造が簡単なことや、土間とブツマの境を壁で仕切って閉鎖的にしている点などから、17世紀末から18世紀初頭の建築とみられます。奈良市内の農家の中で、最も古いもののひとつです。

建物は北向きで、農家としては小型です。屋根は大和平野の農家によくみられる「大和棟」の形式です。内部は、東側を土間、西側を居室とします。間口が狭いため、農家によくみられる「田の字型」の間取りではなく、ブツマとダイドコの2室のみです。

昭和46年に県指定文化財に指定され、昭和48年に細田家から奈良市へ寄贈されました。19世紀に西側へ敷数が増築されていましたが、指定の頃に撤去されています。昭和48～49年度の保存修理で、間取りや壁・建具類が当初の姿に復原されました。



江戸時代における農家集落の分布 (下図は明治時代の地図)

## 奈良町の農家

江戸時代の奈良の町は、町場の周囲に農村が広がり、町家に続くようにして農家住宅が建ち並んでいました。

町家と農家では造りが異なります。一般的に、町家は間口が狭く、居室を一行に配置し、屋根を瓦葺としますが、農家は間口が広く、居室を「田の字型」に配置し、屋根を草葺とします。小型の農家の場合は、居室を一行しかつくれず、明治以降は農家も瓦葺で建てられるようになります。そのような場合でも、農作業の場である土間を広く取るなど、農家特有の造りがみられます。

農家の集落は、川上、法蓮、北市、芝辻、油坂、三条、城戸、杉ヶ町、京終、紀寺などにありました。現在も、草葺屋根をトタンで覆った農家がところどころに残っています。



正面



ニワ



断面図 1/200



立面図 1/200



ダイドコとブツマ



ウシゴヤとハナカミ柱

### 🍵 大和棟とは 🍵

きりづまづくり  
切妻造の草葺を主体とし、かまど上  
や前後の庇を瓦葺とする屋根形式を「大  
和棟」と呼びます。土間の「煙返し」の  
大梁は瓦葺と草葺の境にかかり、漆喰塗  
の「高塀」を支えます。大和平野を中心  
に分布する独特の屋根形式です。

### 🍵 みどころ 🍵

- ・天井…竹のすのこの上にむしろを敷き、土を載せています。
- ・屋根裏…葺き替え用のわら等を蓄えたり、物置として利用されます。
- ・ウシゴヤ…入口左手の一角はウシゴヤで、上部は物置です。
- ・ハナカミ柱と煙返し…ウシゴヤの南西角の柱は「ハナカミ柱」と呼ばれます。この柱から背面まで大梁をかけ、その上に壁を作り、かまどの煙が居室側へ流れないようにしています。これを「煙返し」と呼びます。
- ・敷居・鴨居…襖を引く溝が途中で止まっているものがあります。江戸時代の古い民家にみられます。
- ・鳩袞…大和棟によくみられる鳩の形をした飾り瓦です。棟の両端に載ります。



背面

## 奈良県指定有形文化財(建造物) 旧細田家住宅

Nara-Prefecture-designated Tangible Cultural Property, Former Hosoda Family House  
late 17th c. to early 18th c.

- ・構造形式：桁行10.0m、梁間9.2m、切妻造段違、草葺及び本瓦・棧瓦葺、正面及び背面庇付、本瓦及び棧瓦葺
- ・年代：江戸時代 中期
- ・指定年月日：昭和46年3月28日
- ・所在地：奈良市雑司町40-3
- ・所有：奈良市

### 【アクセス】

奈良交通バス「今在家」下車、徒歩5分(約400m)／近鉄奈良駅から徒歩25分(約2km)  
駐車場なし

### 【問い合わせ先】 奈良市教育委員会 文化財課

630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号／TEL:0742-34-5369／FAX:0742-34-4859

